

2008 年度前期 建築に対する学科の取り組みについて (FD 研修会) 議事録

1. 開催日時：平成 20 年 9 月 24 日(水)16:10～

2. 開催場所：S2 棟 3F 会議室

3. 出席者：安原一哉, 福沢公夫, 小柳武和, 沼尾達弥, 呉智深, 井上涼介, 金利昭, 山田稔, 小峯秀雄, 横木裕宗, 寺内美紀子, 原田隆郎, 桑原祐史, 信岡尚道, 村上哲, 藤田昌史, 田坂幹雄(土木行政非常勤講師), 田名部菊次郎(技術員), 金澤浩明(技術員), 木村亨(技術員), 石川比奈子(事務補佐員)
(順不同, 敬称略)

□カリキュラムで1級を網羅できるか否かでパンフ記述を変える必要がある

□大学院の指導ではどうか

□就職と社会との関係

インターンシップを1年位取る必要性がある。

研究論文を書く環境では1級建築士をとることができない。

実務経験については、以前と位置づけは変わらない。資格のみ有する人は設計事務所には入ることができない。

建築学科でも大学院は研究・実務と割り切る傾向にある。

科会に提案した資料の中で、製図7単位をクリアできれば1級建築士の資格を有するカリキュラムを提案
す
ることができる。

意匠・構造・設備・施工系 というカテゴリがある。

設備と意匠は建築系からしか取らない。ただし、1級建築士の資格を持っていれば、出身学科は関係ない。

コース分けをする程度の改革をしないと学生確保はできにくい。

1級建築士の資格を取るための設計演習の対応

製図□:1、製図□:1、□設計演習□:1、設計演習□:1、製図:3 → 7
(左側の科目はすべて担当教員を分けなくてはならない)

意匠教育を進めることは必要になると考える。

→新しい土木とは？ サステナビリティとは？ 都市システムとして議論をしてもらいたい。

→今後は、小柳、金、山田、寺内、桑原 で議論をして結果を報告することになった(10月リミット)。